

子どもたちが考える、
防災と減災についての意見交流会

山田町子どもまちづくりクラブメンバー

三重県教育委員会が主催する交流事業で、岩手県を訪れた高校生が、山田町でボランティア活動をするにあたり、活動に併せて「まなびの時間」も設定させていただきました。公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン「山田町子どもまちづくりクラブ（通称 KYT）」のメンバーとの意見交流です。あえて、「子ども同士」の環

境としたことで、お互いの地域のことや、防災・減災に必要なことを存分に話し合うことができました。引率の先生方には、別行動で町内の視察などをしていただきました。

また、意見交流会終了後には宿泊場所へ移動し、夕食を食べながらの交流会。にぎやかな雰囲気の中で会話も弾みました。三重県と山田町、次代を担う子どもたちの、良い交流の場所になったのではないのでしょうか。



「山田町まなびの時間」への声 県教委

僕は昨年に引き続き東北へ復興ボランティアに参加させていただきました。瓦礫は撤去されているだけ、また途切れたままの線路を目にした時は、とても胸が痛くなりました。

KYTさんとの交流では防災についての見直しをグループに分かれて話し合いをしました。2年半たった今、防災に対する意識が薄れていた頃、貴重な話も聞くことができました。また、何気なく生活している今、見直さなければならない点も多く見つかりました。特に、避難所の確認は帰宅してすぐ行かない、より安全な場所へ避難することを決めました。KYTの人たちの防災への意識、また今回も山田町の方々の温かさに感動しました。

KYTのみなさん、山田町のみなさん、ありがとうございました。

県教委参加者 石塚僚さん



「三重県の高校生と一緒に」という言葉にひかれ、交流会に参加させていただきました。意見交換をした時にどんどんアイデアが出て、他地域の人と関わりたいという目標がかないました。交流の機会をくださった方々に感謝しています。また、意見交換をする中で、三重県と山田町の防災の課題の共通点、相違点をまとめることにより、お互いの地域に足りないものを知ることができ、防災意識が高まったような気がします。

三重県の人たちが親しみやすく、話しやすかったおかげで充実した時間が過ごせました。ありがとうございました。

県教委ガイド代表 外館ひなたさん



前年に引き続き、今年の「まなびの時間」でも、多くの方にご協力をいただきました。生々しく残るあの日の記憶や体験を話す環境をつくることは、過去を克服できる可能性もある反面、当時の感情を思い出す危険も含む、非常にこわい取り組みでした。

「うまく話せないと思う」「人前で話すことなんかない」「何を話したらいいのかわからない」。これは、ガイドをお願いするにあたり、必ずといっていいほど、相手に返される答えです。最初は不安げに引き受けていただいたガイドのみなさんも、「まなびの時間」が終了すると、とても晴れやかな表情をされていました。そして、お話を伺ったボランティアも多くのことを感じ、まなぶことのできる素晴らしい時間を作ってくださいました。

震災で辛い思いをされた方に「まなびのガイド」を依頼することは、心苦しいことでしたが、今後、三重県でも起こるとされている大災害で、学んだことを活かせるよう、一人でも失われる命を減らすための取り組みがなされることを期待しています。

「まなびの時間」があってよかった！

「まなびの時間があってよかった！」とは、帰着直後のふりかえりの場で必ず聞くことばです。

約 15 時間バスに揺られて現地に降り立ち、町を回りながら、まなびのガイドさんが語る被災当時の様子、被災前の町のこと、そしていまのことや気持ちに耳を傾ける 1 時間半が、ボランティア活動に入る気持ちを整えるうえで、とても貴重だったと言います。

様々な分野の、様々な立場のガイドさんをお願いするのは現地スタッフのふたり、被災直後では難しかった山田町の方によるまなびの時間はボラパックⅡになくはない企画になりました。ガイドを引き受けていただいた皆さんに心から感謝します。

事務局長 若林千枝子

